



水キラキラ 町いきいき入善

議会だよ入善

GIKAI

DAYORI

NYUZEN

No. 139

2006年10月27日



みんなで刈ったよ（上青小学校の学校田）

9月定例会

スマートIC本格導入へ

2 P

トンネルじん肺根絶の陳情 継続審査に

3 P

大きく変わる障害者福祉政策（委員会レポート）

4～5 P

町政を問う

一般質問（8議員）

6～13 P

入善町に移り住んで・入善のむかし話

14 P

ホームページでもご覧になれます。 <http://www.town.nyuzen.toyama.jp/>

入善スマートインターチェンジ 本格導入決定

～県内初のETC
専用インターに～

9月議会の
あらまし

補正予算の概要

9月議会は、5日から15日までの11日間開会し、町長から提案のあった一般会計などの補正予算3件、入善町国民健康保険条例の一部改正、工事の請負契約2件、黒東合口用水組合協議会議員の選挙、入善町教育委員の選任の同意、人権擁護委員候補者の推薦を審議し、すべて可決した。また、陳情1件を審査したほか、8日と11日に一般質問が行われ、8人の議員が質問に立ち、論戦が交わされた。

一般会計

スマートIC整備に

2億5770万円

入善スマートICの恒久設置の許可により、来年7月から、新潟方向も利用可能な本格的なインターに整備するための工事を行う。

防犯灯設置事業に

62万円

安全・安心の町づくりのため要望の多い防犯灯の設置や修繕に対し、補助を増額する。

特別会計

保険財政共同安定化事業に

9490万円

高額医療費共同事業の制度

そのほかに、障害者自立支援法の施行に伴う事業の調整、つくし号の運行補助助成、フラワーセンター暖房設備の改修、町道の維持管理及び整備の実施、総合型地域スポーツクラブへの育成補助などを行う。

このことにより、一般会計で2億8953万円の補正となり、総額は97億6238万円となった。

国民健康保険条例の一部改正

医療保険制度を持続可能なものにしていくため、現役並みの所得がある70歳以上の高齢者の患者負担を2割から3割に引き上げる。

また、子育て家庭を支援するため、出産育児一時金を現行の30万円を35万円とするなど、条例の一部改正を可決した。



12月から本格工事（南側進入路）

黒東合口用水組合議会議員の補欠選挙について

6月23日に欠員が生じたので、新たに黒東合口用水組合議会議員の選挙を行い早川清治氏を選出した。



早川清治氏
入善町新屋

陳情

◎ トンネルじん肺根絶を国に対して求める陳情書

陳情者 全国トンネルじん肺根絶北陸訴訟原告団ほか

国に対し、トンネルじん肺被害の防止と早期解決。被害の早期救済を図るための「トンネルじん肺補償基金」の創設などを求める陳情。

継続審査とした

工事の請負契約

次の工事請負契約について可決した。

●入善インター北線道路新設工事請負契約
請負者 戸田建設・飯作組共同企業体
請負金額 1億2810万円

●入善インター南線道路新設工事請負契約
請負者 西松建設・廣川建設工業共同企業体
請負金額 9千712万円

人権擁護委員の推薦について

12月31日で任期満了となる人権擁護委員に、本瀬 薫氏、谷口整子氏の両氏を推薦することに同意した。



本瀬 薫氏
入善町春日



谷口整子氏
入善町柗山

教育委員会

委員の任命について

9月30日で任期満了となる教育委員に國友雄一氏の任命に同意した。



國友雄一氏
入善町小摺戸

平成17年度決算の

審査について

平成17年度入善町一般会計歳入歳出決算ほか特別会計の審査について、次期12月定例会まで決算特別委員会を設置し、審査することとした。

委員は次のとおり

委員長	大林政雄
副委員長	本多幸男
委員	五十里隆章
“	松田俊弘
“	中瀬範幸
“	鬼原征彦

常任委員会レポート

産業教育 常任委員会

フラワーセンターの
必要性は

Q フラワーセンター
事業の年間維持管
理費が大きい。センター
の必要性はどうか。

A フラワーセンター
へ花の観賞に年間
1000名の町民が来
場する。また10万ポ
ツトの花を各公共施設に
提供している。

しかし、今後施設の
あり方を検討していく
必要がある。

バス運行委託料をな
ぜ9月補正するのか

Q バス運行委託料の
増えた理由はなに
か、なぜ9月補正になっ
たのか。

A 昨年12月T社から、
退職者OBの利用
でN社より安価な見積
もりがでたので予算化
した。

しかし3月に入りT
社から、方針変更で社
員を使うことになり、
N社より高い見積もり
になった。よってN社
と契約した。

また、緊急性のない
事業費は原則として6
月議会では補正を行わ
ない。それが9月補正
の理由である。

スマートICの建設
費用負担は

Q スマートICの、
国、町、中日本高
速道路の建設費用負
担割合はどうなったの
か。

A 町、中日本高速道
路(株)で対応する。
割合は高速道路の敷地
内で2割が中日本高速
道路(株)、8割が町負担
である。

国より、まちづくり
交付金対象事業の認可
があり、町負担の40%
が補助となる。

中部清掃センターの
補正の内訳は

Q 中部清掃センター
に関する補正の説
明をせよ。

A し尿を下水道に流
すための認可申請
調査費である。

調査費260万円は
新川広域圏事務組合か
ら町へ受け入れたもの
である。

Q 浄化センターは6
基で、し尿受入れ
能力があるのか。

A 平成17年度の全体
計画の見直しでは、
2万7300人の処理
能力がある。
しかし、広域圏の処
理目標量を考え、その
ための調査費と資料づ
くりである。

こんな意見も

◎町は安易に町債を発
行している。町債は借
金であり利息もつく。
繰越金は財政調整基
金に積立てるのではな
く、町債発行減に運用
すべきである。

◎スマートICが双方
向の利用可能な施設と

して、地域経済活性化
のため早期完成を求め
る。

◎中部清掃センターで
し尿を水でうすめ、下
水道へ放流した場合、
解決すべき問題が多く
ある。

調査をしっかりと行い、
議会にも事前に十分説
明して欲しい。



全面改築が待たれる中部清掃センター

総務 常任委員会

「あゆみ共同作業所」の負担金とは

Q 魚津市の障害者の「あゆみ共同作業所」運営費負担金を、なぜ補正する必要があるのか。

A 従来からの県補助が廃止となり、10月からは魚津市単独事

業となる。また、通所している市、町からは人数割りで負担することになった。

従って補正は入善から通所者7名分の負担金である。

また、入善の「工房あおの丘」事業負担金として、魚津2名、朝日2名分が入金される。

つくし号の移送サービスはどうなる

Q 今までの社会福祉協議会で行っている、つくし号による有

償移送サービスは、できなくなる。その対応について説明せよ。

A 法改正により10月からは、会費制で運用することになる。

現在会員数は60名であり、年間1万2000円の会費である。人数が減るのではと心配だ。

運転ボランティアは、21名登録されているが実働は10名位であり、運転手の確保が課題。

Q 会費を納めていない人は利用できないのか。

A 利用できない。入退会は自由であり、月割り計算を検討する。

高額医療費共同事業の改定の内容は

Q 国保の高額医療費共同事業の改定の内容を説明せよ。また町の貸付制度は堅持さ

れるのか。

A 県の国保連合会が財源を共同でプー

ルし、高額医療に係る保険者（自治体）の費用負担を平準化する互助事業である。

対象となる医療費が1件当たり70万円から30万円に改正された。

実施時期は18年10月からである。また、町民への貸付制度は従来どおり堅持していく。

70歳以上医療費3割負担の対象者数は

Q 入善町国民健康保険条例の一部改正で、70歳以上の現役並み所得者は、医療費の2割負担から3割負担になるが、町の対象者は何人か。

A 国民健康保険での対象者数は68名である。

Q 現役並み所得者であるが、その内容は。

A 月収28万円以上、課税所得145万円以上の者をいい、年収ベースでは、夫婦2人世帯で約520万円以上、単身世帯で約380万円以上となる。

こんな意見も

◎今回の補正で財政調整基金繰入金と減債基金繰入金の減額を行っている。

これは、前年度繰越金を当てたものであり当局の努力を評価する。

◎自治体の財政健全度をみる「実質公債費比率」は、県内でも3番目に低い数字である。今後健全財政の堅持に努めよ。

◎防犯灯の設置や修繕の要望が多い。

今後安全・安心のまちづくりのための配慮を願う。

◎障害者自立支援法など福祉制度が大きく変わりつつある。

障害者に1割負担が課せられるなど、厳しい内容であるが公正・公平のなかで、制度や事業の推進には必要なものと考える。

町は、利用者に対し制度の周知を図り、安心してサービスが受け続けられるようにせよ。

◎トンネルじん肺根絶を国に対して求める陳情書については、現在国が控訴中でもあることから、状況などを見守る必要がある。

◎入善町はじん肺者が多い。意見書案は無理なことを言っている訳ではない、要望に応えるべきだ。

◎防犯灯の設置や修繕の要望が多い。



元気わくわく教室（新たな国保事業）



クリーン入善7129大作戦

問 米澤町長には3期目無競争当選された。このことは、真摯な町政執行、企業誘致の成果、スマートICの本格実施への取組み、堅実な財政



鬼原 征彦 議員

町政執行にあたる基本姿勢は

町長 自助、共助、公助のまちづくりを

政治信条に

運営と行財政改革など、実績を重ねた結果と考える。

町政執行にあたる基本姿勢を問う。

米澤町長 無投票で信任いただいたということは、実績を評価されたものと推察している。

それだけに、町民の期待は大きいものと受けとめ、責任の重大さを痛感している。

公平で透明な町政執行、町民の目線に立った施策の実施、自助、共助、公助のまちづくりを政治信条として、責任を果たして参りたい。

クリーン入善7129大作戦の成果は意識改革の大きな一助となった

問 7月にクリーン入善7129大作戦が展開された。その成果と今後の継続のあり方は、田中住民環境課長 町内全域40カ所を会場として、8300人を超える参加があった。

また町内企業においても、クリーン週間には、40社以上2000人の協力があつた。

町民総ぐるみの活動を通して、意識改革の大きな一助となった。

今後は7月をクリーン

作戦清掃月間とし、地区が主体となった清掃美化活動となるよう支援していきたい。

今後の米需給調整対策は

関係機関と連携を密にして推進

問 これまでの行政を通じた生産目標数量の配分方式から、農業者、農業者団体の主体的な需給調整システムへと変わる。

今後の移行対策は、浜田農水商工課長 新たな需給調整は、町水田農業推進協議会が中心となつて、具体的な調整を行うことが基本となる。

町では、需要量などに関する情報を得て、関係機関と連携を密にして推進する。

食育フェスタを食育推進に活かす

食育推進計画の策定に着手する

問 「食育フェスタ」入善が7月開催された。

食育は生きるうえで基本であり、幅広い分野にわたる一体的な施策が求められる。

食育推進計画の策定をどのように進めるのか。鍋谷企画財政課長 町では、18年度を食育元年と位置づけ食育フェスタを開催した。

今後さらなる食育推進を図るため、入善町食育推進会議を設置し、町の特色を生かした、実現性ある食育推進計画の策定に着手する。

経営所得安定対策等大綱

兼業農家へどう啓蒙するか

農水商工課長 水田農業推進協議会や

営農指導員を通じ農家に周知

問 兼業農家に、経営所得安定対策等大綱の理解を求めるため、啓蒙活動を行い周知を図れ。

農水商工課長 農家への周知啓蒙については、各地区の生産組合長会長や

各種関係団体で構成されている水田農業推進協議会を通じ、啓蒙していく。また、営農指導員とも連携をとって周知を図る。

農業を担う経営体の確保と育成をどう図るか

集落営農組織の育成が最重要課題

問 現在、町の担い手要件は、原則として認定農業者が4ヘクタール以上、集落営農組織は20ヘクタール以上の経営体となっている。

町の農業を担う経営体の確保と育成をどのように図るか。

農水商工課長 農家の経営安定には、「担い手」

いわゆる認定農業者、また集落営農組織が不可欠である。これらを育成することが最重要課題である。

また、町が実施している担い手育成アドバイザー制度は、既に「担い手」となって活躍している方々にアドバイザーとして委嘱し、「担い手」

希望者に指導がくまなく行き届くようにと考えている。

「担い手」育成が困難な地域では、集落組織ではなく、グループとしての営農をケース・バイ・ケースで推進し、その代表者を「担い手」として登録していくような手段も考えている。

引き続き、関係機関と連携をとって「担い手」の育成を進めて行きたい。

特産物の栽培技術を営農組合組織に活かせる

集落営農で特産物の推進も

問 町の特産物であるチューリップ、ジャズポスイカなどの栽培技術を、

営農組合組織の「担い手」の育成に活かさないか。

農水商工課長 チューリップ球根やジャズポスイカなどの特産物の生産では、後継者不足、高齢化は否めない。

入善町が自慢できる特産物を何としても守っていくことが必要。

黒部市では、球根栽培で所得を上げている集落営農もあると聞いている。今後、入善町でも施策を十分とってまいりたい。

3期目を迎える新たな行政課題は

健全財政を堅持し将来にむけたまちづくりを推進

問 これまでの町長としての経験を活かし、迎える3期に向けて、新たな行政課題にどのように取り組むのか示せ。

町長 今後の課題として、自主防災組織の底辺の拡充と組織間の連携による安全・安心のまちづくり、食育の推進、生み育てやすい環境づくり、地域経済活性化や人口増対策、中心市街地の活性化、農業をはじめとした地域産業の振興、インターチェンジの恒久設置、深層水事業の振興などに積極的に取り組む。

健全財政を堅持し、将来に向けたまちづくりを推進する。



秋晴れの中 胸おどる収穫



松澤 孝浩 議員

病児・病後児保育事業への取り組みを求める

町長 安心して預けられる保育環境を目指す



大橋 美椰子 議員

問 厚生労働省は2007年度から「病児・病後児保育事業」を実施すると発表した。

看護職員を保育所に配置し、次年度早期に実施できるように取組みを求めらる。

町長 嶋田医院では、5月から子どもデイケア「暖家(だんけ)」を開設している。

保育所での病児緊急対応には、マニュアルを基本に、適切な対処に心掛けています。子どもたちの急な異変を感じた場合、医療機関へ搬送し、適切な処置を講ずる。

今後も保育士のスキルアップを図り、安心して預けられる保育を目指す。

障害者自立支援法での追加措置でどう変わる

一部サービスの利用基準の緩和など

問 障害者自立支援法の10月の全面施行を前に追加措置がとられた。

障害者・施設・作業所別にどう変わるのか。

笹島健康福祉課長 自立支援法では、提供されてきた障害福祉サービスなどが、介護保険制度

と同様に支給決定が行われる。これまで収入に応じた自己負担だった。作業所への通所も実費徴収以外は無料だったが、新体系移行後は、量に応じて1割の負担となる。

町内に1カ所の身体障害者通所訓練所は、県の運営費補助が9月末で廃止される。年度末までは町で助成するが、次年度からは作業所として運営される。

知的障害者デイサービス事業所は、新年度から訓練などの給付を中心とした事業所に移行する。追加措置として、一部のサービス利用基準や、施設の指定基準の緩和、事業報酬に対する各種の加算などが提示された。

新制度では利用者負担が大きく変わった。町としては新制度の主旨を十分に尊重し、利用者にも負担すべきものは負担していただきたい。

今まで以上に障害者のみなさんから満足してもらえるサービスを提供し、体制の確保に努めたい。

改正中心市街地活性化法のもとの取組みは
財源計画も含めた市街地の活性化を検討

問 新たな法の下での町の基本計画、協議会の設置、中心市街地共同住宅供給事業など、内容を示されたい。

農水商工課長 平成11年に基本計画を制定している。現在計画を進めている「うるおい館(仮称)」はこの計画を基本としている。

協議会を設立し、具体的に現実的な施策を立てる必要がある。共同住宅供給事業は、今後商工会、各種団体と協議する。



病後児保育の「暖家」

活気ある産業とにぎわいのまちづくりは 町長 企業立地と雇用の創出で



決意も新たに初登庁

問 米澤町長は無投票で3選を果たされ、今後4年間の町政の舵取りを町民から託された。

活気ある産業と、にぎわいのまちづくりにどう取り組んでいくのか。

町長 自治体の根幹である人口増対策、自立した財政基盤づくりのために、企業立地と雇用の創出が最重要と捉えており、積極果敢に取り組む。

合併についての考え方は

将来的には避けて通れない道

問 町長は当分の間、合併しないで単独町政の道を選択された。

再選された今、合併についての考えを示せ。

町長 合併には、スケールメリットのほか、住民

の利便性の向上、生活の広域化への対応、行政組織の高度化、行財政改革など多くのメリットがあるが、必ずしも合併でしか実現できないとは思わない。

しかし、町は単独での努力により維持発展し、住民のニーズに 대응しているほど、楽観的な状態にあるとは思わない。

将来的には、合併は避けて通れない道であると考ええる。

スマートICの社会実験の評価は

町上げての取組みに国などから高い評価

問 インターチェンジの

町への導入は、町民の長年の夢である。

スマートICの社会実験を成功させ、本格導入のため、行政と町民が努力した。

社会実験をどう評価しているのか。

本多助役 ETC車載器の設置助成件数が、7月末現在3419件と、普及促進に努めた。

同時に1日当たりの利用台数も600台を越えるなど、町上げての取組みは、国などから高い評価を受けている。

また、新潟方面への利用可能なフルインター整備後に24時間運用されれば、交通量は800台が見込まれる。

中日本高速道路㈱の経営としても、十分に採算性が高いと、評価されている。

スマートICのアクセス道路の必要性は

南北ラインに結びつく東西線の整備が必要

問 スマートIC利用者に対し、利用しやすい道路環境整備は欠くことができない。

スマートICへのアクセス道路整備の必要性はないか。

助役 スマートICは、南北を結ぶ県道「入善宇奈月線」に接続している。現在、新屋地内で拡幅改良しており、国道8号まで改良工事を行うよう、積極的に働きかけていく。南北ラインに結びつく東西線の強化も、道路計画の中で進めていく。



長田 武志 議員



排砂中の宇奈月ダム

黒部川ダム排砂について見解を述べよ

町長 ダムの洪水調節・機能維持 のためにも排砂は必要



中瀬 範幸 議員

問 町長は土砂管理協議会メンバーとして、町民の目線で見たダム排砂について、どのように考えるか見解を示せ。

町長 黒部川は、過去に洪水氾濫を繰り返し、大きな被害を与えてきた。宇奈月ダムは、洪水防止に必要な施設である。しかし、黒部川は土砂

量は、3万m³であった。なぜ途中で10万m³に変わったのか。小森建設課長 従来は12月の堆積測量を目標排砂量としていた。

平成16年度より、雪解け時の土砂流入量を考慮し、5月にも測量し目標排砂量とした。従って平成18年度は10万m³と変更となった。

町として排砂方法を検討し提案せよ

排出回数を増やす検討を進める

問 平成18年度目標排砂量12月と5月に測量し目標量を変えている

問 関係団体から要望の多い排砂方法について検討し、改善案をきちっと提案せよ。

建設課長 排出回数増は、試験中であり今後も協議を進める。

問 今年度内に着工、19年度末までの完成をめざす。要望のある民間ホテルと相乗効果を図れ

「うるおい館(仮称)」を早期に立ち上げよ

今後調整を重ね19年度まで完成をめざす

問 「うるおい館(仮称)」建設は、長年の課題だ。

町長 コンセプトは、

①市街地に人が「歩き」「出会い」「集う」空間を創造し、日常的ににぎわうまちづくりの拠点。

②中心性を発揮し、市街地に「住むこと」「訪れること」が楽しいまちづくりの推進である。

今後、議会や関係団体と調整を重ね、早期に実施設計に取組む。

問 民間から要望のあるホテルを隣接して相乗効果を図れ。

助役 ホテル建設は、町外に流出している宿泊需要を吸収するとともに、宿泊客による周辺商店利用などの経済波及効果が期待できる。

町は、新たな企業立地ととらえ、町有地を賃貸して支援する。

カフェレストランの相互利用、ホテルによるホールのパーティ利用など、施設利用を高める積極的なイベントを期待する。

「うるおい館(仮称)」に2億5000万円 増やし学校給食の共同調理で予算削減か

助役 教育センターなどを移設することで増加



おにいちゃん、おねえちゃんと給食の配膳

問 当局は「うるおい館(仮称)」建設に当初計画より2億5000万円規模を拡大するとした。1階部分のギャラリ-

メディアコーナーなど、ほとんどが他の施設にあり、見直すべきだ。

助役 この部分は人々が自由に集え、にぎわいや交流促進に欠かせない空間だ。教育センターと女性センターを移設することで増加した。

問 当局は箱物事業の予算を膨らませる一方で、年間2000万円削減のために、学校給食の共同調理方式を進めようとしている。

魚津市の民間保育所で0-157の集団感染が広がった。給食を自校方式で始めたのは集団食中毒を考慮したためだ。食の安全のためにも直営自校方式を堅持すべきだ。

町長 子どもの数が減って調理室に余分が出ており、共同調理で無駄を省くことができる。9校に調理室があり、半分がよいか3分の1がよいか、これを上手に使う必要がある。

海岸整備計画に住民の意見をどう反映させる。

アンケートを実施

問 国は、「下新川海岸を災害に強く地域に愛される海岸」にするため、海岸整備計画をまとめる方針だ。

地域住民の意見をどう計画に反映させるのか。一部で砂浜が回復し海

辺で遊ぶ人が増えている。トイレやシャワーなどの設置も検討すべきだ。

建設課長 海岸隣接地区の全世帯とそれ以外の500名を対象に、アンケートが予定されている。

問 防災林の密植状態で枝が枯れ、松食い虫による立ち枯れも発生している。早急な対策を取るべきだ。

建設課長 枯れた松は伐採し、被害拡大の防止に努める。密植対策は春日地内で6月に間伐を行った。生育状況を見ながら県に申請し作業を行っている。

問 古黒部には、蛍やシジミ、ドジョウなどの貴重な生物が残っている。

豊かな環境を守るには地域住民の協力が必要だが、住民だけに負担を求めてはならない。町も草刈などに支援すべきだ。

建設課長 地元で維持管理の組織がつけられ、環境に配慮した管理を行う

となれば支援を行う。

県単医療助成を後退しないよう働きかけを

助成制度の趣旨を尊重した運用を求めた

問 県は、乳幼児や障害者などの医療費助成を見直すために「あり方懇談会」を設置した。

懇談会は、妊産婦と一部の障害者助成の廃止、所得制限を導入するなどの中間報告をまとめた。

町は県に対し、助成制度を後退させないよう働きかけるべきだ。

健康福祉課長 市町村の意見が反映されない一方的な取りまとめの印象がある。

県のヒヤリングの時に、助成制度の趣旨を尊重した運用に努めるよう伝え



松田 俊弘 議員



本多 幸男 議員

町の財政健全化度は県内のどの位置か

企画財政課長 実質公債費比率は、県内第3位と健全



工事が進む8号線バイパス

に国の許可が必要であり、25%以上で再建団体に陥る。

町の財政健全化度について、県内でどの位置にあると考えているか。

企画財政課長 全国1800自治体のうち、18%を超えるのは406団体、県内では3つの市が超えている。

入善町は3番目に低い比率であり、基金は3番目に高い残高で、財政は総じて健全である。

今後万全の方策を堅持したい。

問 自主財源、依存財源と義務的経費の将来見通しを示せ。

企画財政課長 自主財源は、概ね40%で推移して

おり、景気回復と新規企業の進出により、税収増を期待している。

今後、交付税や国庫補助金などは減少する。

三位一体改革で町への影響は年間、5億3000万円の減である。

職員定数見直しなど行財政改革を徹底し、5年前より5億円圧縮した。

さらに住民サービスを下させず、歳出の抑制に努める。

合併の評価をどう把握しているか

評価には少し時間がかり、検証が必要

問 全国で3200の自治体が1800ほどになっ

たが、合併の評価をどう見ているか。

町長 県内の評価には少し時間がかかるが、兵庫県篠山市の調査では、住民サービスの面で理解を得られているようだ。

今後検証し町の方針に活かしていきたい。

空家の利活用の促進を

有効活用の検討したい

問 町も過疎化の波が押し寄せている。空家の利活用を促進する条例を制定してはどうか。

企画財政課長 町の空家は、平成12年度では379戸、17年には484戸と増加した。

定住人口の確保は、大きな課題である。

空家の活用には課題が多いが、団塊の世代の動向もあり、有効活用を検討していきたい。

8号バイパスの開通は

町内は今年12月、全線開通は平成26年をめぐりに

問 国道8号バイパスの開通はいつになるか。

建設課長 町内では今年12月に開通する。魚津市江口までの7・3キロは、新幹線開業と同じ平成26年完成をめどにしている。

入善西部地区へ大型商業施設を誘致せよ

商店街との調整が先決

問 町全体の土地利用計画に基づき、入善町西部地区に大型商業施設の誘致を促進されたい。

農水商工課長 誘致には、市街地商店街との調整が先決であり、現状では次期尚早。

商工業に対し活力を与える政策は、今後も取り組んでいきたい。

問 国は、新たに導入した自治体の実質公債費比率の速報値を発表した。これは自治体の債務の状況により、財政の健全度を計るものである。18%を超えると新たな借金

要介護者への障害者控除や

低所得の障害者に支援を

健康福祉課長

自助努力で負担をしてもらおう

応じた障害者の支援の利
用料が、障害者自立支援
法では、原則1割負担に
なった。「小泉改革」で、
年金が減るのに増税され、
介護保険料は上がり障害
者の負担が重くなった。
この新たな負担分はど
こから用意すればいいの
か。低所得者に町が支援
する考えはないか。



10月から新しくなった「のらんマイ・カー」

問 老年者控除の廃止、

公的年金等控除の縮小、
定率減税半減などで、高
齢者を中心に大幅な増税
になった。

また、これまで所得に



九里 郁子 議員

問 所得税法上では65歳

以上の人で、市町村長が
認定すれば障害者控除が
受けられる。

負担軽減のために、要

介護認定者が障害者控除
を受けられるようにすべ
きではないか。

健康福祉課長 要介護認
定をもって障害者控除の
適用を受けることはでき
ないと理解している。

昼食をはさんだりハ
ピリを

いきいきスタジオが
利用可能なら十分に
きる

問 サンウエルでのリハ
ピリを、午前中だけでな
く、要望の強い昼食をは
さんだ一日に戻すべきだ。

健康福祉課長 「いきい
きスタジオ」が利用可能
なら、昼食を楽しんでも
らうことも十分できる。

ダムに落葉などを溜
めないよう頻繁に通
砂を

適切な排砂・通砂を
住民理解を得ながら
実施

問 出し平・宇奈月両ダ
ムの連携排砂・通砂は、
台風や秋雨前線による出
水時、雪解け時にも行え
ば、落葉などの堆積を防
げる。

排砂・通砂後は清流が
回復するまで放流すべき
だ。土砂管理協議会に漁
業者や農家を加え、意見
を反映させるべきである。

また、排砂・通砂の時
には合口用水が止められ、
町民は不安に思っている。
タンク車の増車配備な
どを、関電と国土交通省
に要請する考えはないか。
建設課長 町長も基準を
下げて回数を増やせない
かと述べた経緯もある。
連携排砂関係機関連絡
会議で、漁業関係や土地
改良区などの関係団体に

事前に説明し意見を聞き、
土砂管理協議会に反映で
きる仕組みとなっている。
タンク車の増車配備な
どは、消防署と相談しな
がら要請していきたい。

コミュニティタクシー
で狭い道路もこまめに
費用対効果を見極め
検討したい

問 吉原や芦崎などの狭
い道路でも走れるジャン
ボタクシーを、町営バス
を補完するコミュニティ
タクシーとして走らせて
はどうか。

「うるおい館(仮称)」
を中継地にすれば、あさ
ひ総合病院への運行も可
能になるのではないか。
農水商工課長 町の負担
が増えると思定される。
費用対効果を見極めな
がら、より利用しやすく
なるよう努める。

町の施設を大いに利用して

入善町に移り住んで



野沢邦治さん

入善町青木在住

私の一日は、朝の散歩で始まります。南には雄大な立山連峰、北には広大な日本海に囲まれた入善町。人情味が豊かで勤勉です。

その人々が築かれた入善町には、四季折々の景観があり、「春にはチューリップ畑」「夏にはジャンボスイカ畑」「秋には黄金色に輝いた稲穂」「冬は白銀の世界」絵になるこの景色は、私の心を躍らせてます。そして、近所の人々のお力添えも得て、自然災害の少ない町に居住して丸5年になりました。

我が家では、恵まれた環境の中で野菜作りに専念し、収穫した時の喜びを味わっております。

「パークゴルフ」「マレットゴルフ」協会に加入。また、カラオケ愛好会にも入会しました。多くの人々と知り合い、

懇親を深めるように頑張っています。

時には、沢スギ、舟見城址館、下山芸術の森美術館、米澤記念館を訪れ、歴史の重みを認識したり、楽しんだりしています。

帰りに、バーデン明日温泉に入り湯舟に浸かって町の良さを痛感し、ここに住んで良かったと喜んでおります。

時折り川崎や横浜から友人が遊びに来ては、米、魚、水の美味しさにうらやましがられます。

「お前は、この地を選んで何と幸せな男だな」との言葉が私の誇りであります。このまちを創りあげた先祖代々の人々に感謝を申し上げます。

まだまだ未知な事が沢山あり、勉強する事もあり、早く町子になり成長するよう頑張ります。

入善のむかし話

(森 清松編より)

舟つなぎ松

むかしは黒部川に堤防がなく、大雨がふると、たちまち大洪水になりました。ですから、人々はそのたびに安全なところへ避難したのです。

そのとき、急にそなえて、舟を大松につないでおきました。それが木沢長次郎さんの近くにありました。ですから、この松を「舟つなぎ松」といっていいました。

洪水が小摺戸前を切ると、かならず、いまの本田仙次郎さんの裏手で落ち合いました。それで、そこを「落合」といいました。

ドウケ

木根の踏切りの近くをドウケといっています。ここを開こんしたとき、真言宗の墓石、仏具が、たくさん出てきました。

むかし、ここにお寺があったのですが、しだいにさびれ、ついに絶えたものでしょう。

あるいは、入善の西蓮寺と同じように、上杉謙信のために焼かれたのかもしれません。



木根の踏切

編集の窓

扇状地に「コシヒカリ」が黄金色に染まりました。天候不順にもめげず、90%を超える一等米比率であり、収量も平年並みと速報されています。田植え後の徹底した「水管理」が良かったそうです。先に発表されたニュースによると、黒部川の水質の良さは、北陸で第3位でありました。

黒部川の豊富な清流が「つぶぞろい」の品質の源です。

子々孫々まで黒部川の恵を大切に引き継ぎたいものです。

9月26日、安倍新内閣が誕生しました。「美しい国づくり」に大いに期待します。

議会広報編集特別委員会

- | | |
|------|-------|
| 議長 | 元島 正隆 |
| 委員長 | 松澤 孝浩 |
| 副委員長 | 松田 俊弘 |
| 委員 | 大橋美椰子 |
| " | 長田 武志 |
| " | 中瀬 範幸 |
| " | 鬼原 征彦 |